

## 地形構造からみる風水景観と風水認知および景観意識

—韓国農村集落における風水景観に関する研究 その13—

正会員 ○野村 優太<sup>\*1</sup> 同 佐藤 誠治<sup>\*2</sup> 同 小林 祐司<sup>\*3</sup>  
同 姫野 由香<sup>\*4</sup> 同 樋口 夏希<sup>\*1</sup>都市計画 韓国 農村集落  
風水 景観 地形構造

## 1. 背景・目的

今日一般的に理解されている風水は生活の中の小範囲で用いられるものばかりであるが、その根本にあるものは中国を発信源とする生活空間の選定に用いられた地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法である。この環境を重んじる風水を研究することは、周囲の環境を作り変えようとしがちな現代の景観を考え直す一環となるものであり、意義あることである。

本研究では、風水によって解釈された集落の景観的な特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の概要

## 2-1. 研究対象地域

本研究では、韓国の風水において重視される白頭山から朝鮮半島を南北に走る太白山脈・小白山脈へと続く気の流れの中にあり、洛東江が特徴的に蛇行しながら流れ、四大吉地<sup>註1)</sup>とされる場所を含む韓国安東(アンドン)・榮州(ヨンジュ)地域の集落を対象とする。(図1)

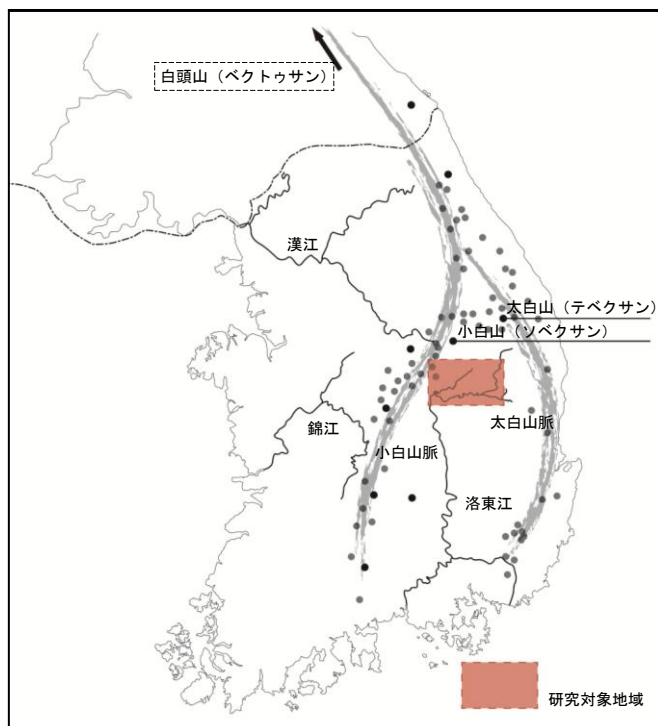


図1 研究対象地域

## 2-2. 研究の方法

本研究その10<sup>1)</sup>では、風水の理論を用いて集落を地形構造的に分類し、それぞれの特徴を明らかにした。本稿では各分類の景観の特徴の把握を行っていく。また、風水認知に関するヒアリング結果と集落の眺望場<sup>註2)</sup>整備状況から風水認知および景観意識についての把握を行う。

## 3. 地形構造からみる風水景観

## 3-1. 得水法の理論と地形構造分類

風水によって集落選定を行う方法には大きく「理気(りき)」、「巒頭(らんとう)」の2つがある。理気とは、方位などの目に見えないもので判断する方法である。また巒頭とは、地形等の目に見える形あるもので判断する方法である<sup>2)</sup>。本研究その10において、地形構造との関わりが強く、形成される景観により影響を及ぼすと考えられる巒頭による判断をもとに対象集落を地形構造的に分類した。対象集落は、強く蛇行して流れる川に面しており、風水の形式論理の中でも水に関する理論である得水法の関与が強いと考えられる。そのため巒頭の中でも水の形と流れの判断である「水局」を用いて対象集落の地形構造的な分類を行った。その結果、共通する水局をもとに5つに分類し、さらにそれらを「閉鎖型」、「開放型」に分類した。

## 3-2. 各分類における景観

「閉鎖型」は川が強く蛇行し、集落を後方まで取り囲むことによって、主山<sup>註3)</sup>が細く伸びていること、集落の境界線が明確になり、集落が島のように浮かび上がっていることが特徴としてあげられる。また強く巻き込んだ川に沿って対岸の山々が集落を取り囲むことによって圍繞感の強い閉鎖的な景観が作り出されている。(図2)

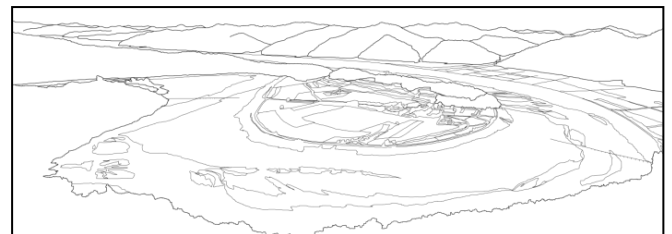


図2 「閉鎖型」集落パノラマ写真(線画) ex. テウン里

「開放型」は川による巻き込みが弱いため、主山が連なり、広がっているということが特徴としてあげられる。また、対岸の山に取り囲まれていないため、広がりのある開放的な景観が作り出されている。(図3)

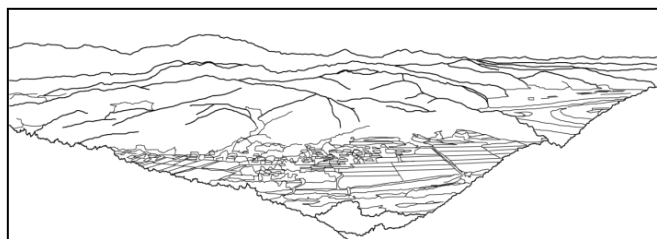


図3 「開放型」集落パノラマ写真(線画) ex. マエ里

#### 4. 風水認知および景観意識

表1よりヒアリングの結果、風水認知が100%の集落はB(スドリ), C(チョゼ里), F(サムガン里), H(マエ里), J(トチョン里), K(ユコク里), L(チョンジョン里)の7集落であった。また、ヒアリングが行えなかったE(テウン里), G(ハフェ里), M(トゲ里)の3集落は風水の地として観光地化されており、パンフレット等に明記されているため、これらの3集落においても十分な風水の認知がされていると考えられる。この10集落の内、集落の対岸に集落全体を見渡すことのできる位置に亭<sup>注4)</sup>や祠堂・展望台・遊歩道など眺望場を整備していた集落は8集落であった。集落全体を見渡すことのできる位置に眺望場を整備しているということは、自らの集落に対する景観意識が高いものと考えられる。

よって風水の認知度が高い集落では対岸に眺望場を整備している確率が高い、すなわち景観意識が高いと言える。このことから風水認知が景観意識に影響を与えている可能性が高いと考えられる。

表1 各集落における風水認知と眺望場

風水認知	集落名						
	A (クムゲン里)	B (スドリ)	C (チョゼ里)	D (シンウォル里)	E (テウン里)	F (サムガン里)	G (ハフェ里)
回数	12	2	2	2	0	2	0
有	6	2	2	1	既知	2	既知
無	6	0	0	1	0	0	0

風水認知	集落名						
	H (マエ里)	I (タンチョン里)	J (トチョン里)	K (ユコク里)	L (チョンジョン里)	M (トゲ里)	N (ミホリ里)
回数	11	2	2	1	10	0	3
有	11	0	2	1	10	既知	1
無	0	2	0	0	0	0	2

眺望場を整備している集落  
風水認知100%の集落

#### 5. 総括

地形構造の分類をもとに、各分類において集落の対岸の視点場からのパノラマ写真を用いて大分類である「閉鎖型」、「開放型」の景観的特徴の把握を行い、それぞれ圍繞感の強い閉鎖的な景観、広がりのある開放的な景観を作り出していることを明らかにした。(図4)

また、風水認知に関するヒアリング結果と集落の対岸の眺望場の整備状況から、風水認知が景観意識に影響を与えている可能性が高いことを明らかにした。

#### 【参考文献】

- 1) 野村優太・佐藤誠治・山口泰佑・樋口夏希:「得水法による地形構造の把握と構成要素の抽出—韓国農村集落における風水景観に関する研究—その10—」, 日本建築学会九州支部研究報告, No.52, 2013.3
- 2) 呉佳錡・山道帰一:「完全定本[実践]風水地理大全」河出書房

#### 【補注】

- 注1) 一般に流布されている四大吉地は、本稿で取り上げたハフェ里, タクシル里, チョンジョン里, トゲ里を指す場合の他にその内の一か所を良洞(ヤンドン)マウルに替えて呼ぶ場合などがある。
- 注2) 本研究では集落全体を眺望するために対岸に整備された視点場を眺望場と称している。
- 注3) 主山とは集落の背後に高くそびえる山である。
- 注4) 高床式板敷き四阿(あずまや)建築であり、基本的に1集落に対して1つある。現代ではほとんど住民の休息空間としての利用に限るが、集会や共同労働の行事などに使われることもある。

分類	閉鎖型			開放型	
	玉帯・拱背水	玉帯・拱背・合水	拱背・合水	玉帯	蔽風・得水
集落詳細地図					
パノラマ線画					
景観的特徴	蛇行: 強 集落を後方まで取り囲む	主山: 細く伸びている 対岸の山: 集落を取り囲んでいる	圍繞感の強い 閉鎖的な景観	蛇行: 弱 集落を後方まで取り囲んでいない	主山: 連なり、広がっている 対岸の山: 集落を取り囲んでいない 広がりのある 開放的な景観

図4 「水局」による地形構造分類と景観的特徴

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
\*2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士  
\*3 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)  
\*4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

\*1 Graduate Student, Oita Univ.  
\*2 Professor, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng  
\*3 Associate Professor, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng  
\*4 Research Associate, Dept of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng